

メッセージ for Kids ～川崎の子どもたちへ～
NEC レッドロケッツ(島村春世さん、塚田しおりさん)

島村: NEC レッドロケッツの島村春世です。

塚田: 塚田しおりです。

島村: 最近おうちで、どのように過ごしていますか。

塚田: 私は家でできるトレーニングをしながら、時間があるので料理を作ったりしています。煮物とか今まであまりやったことのないものを挑戦してみたりしています。ジョンさんはどのように過ごされていますか。

島村: 私は、家でできるトレーニングをしながら空いている時間で、外に出れない分、あつまれどうぶつ森、というスローライフを作れるようなことをゲームで、疑似体験しながら楽しく過ごしている。

塚田: なるほど。今流行っていますよね。

塚田: ジョンさんは子ども時代って、どんな子供だったんですか。

島村: 私は、小学校の時は結構男性に誘われて、キックベースとか、身長高かったからその分動けたので、キックベースやったりとかしてたけど、中学生になってから結構屋休みに漫画読んでて、一変しちゃったんだよね。しおりはどんな感じだった。

塚田: 私は、本当に小さい頃はトランプを家族でやって、ババ抜きして、負けただけでも泣くぐらいの子どもで。小学校とか中学校に入った時は、その負けず嫌いがそのまま続いて、運動会とかでも絶対勝ちたいから、シャカリキにやる子どもでした。

島村: すごい。それ今もだよ。

塚田: 内に秘めた闘志がありますね。

島村: しおりはさ、つらい時とかどうやって乗り越えてきた。

塚田: 一番つらいと思ったのは、中学の練習がバレーボール以外でも、たくさん走ったりとかすることが多くて、本当に辛かったんですけど、でもその時は本当にがむしゃらに必死に頑張っていて、ちょっと挫折しそうなこともあったんですけど、それが実際に今、走るのが好きだったりとか、体力面のところで活かされているなって感じはします。ジョンさんは。

島村: 私は、去年、腰の怪我をして、その当時は手術必要ないとかっていうふうな判断で、試合とかに出てただけで、でもやっぱり手術して、一回まっさらになって、そこからこつこつこつこつ、何でもリハビリとかやっていたら、見る世界が違うな、と思って、そこからやっぱりこつこつ続けることっていうのも大事だなって思ったし、自分の癖とかもどんどんなくなって、良い

動きっていうのができるようになったから、一回ゼロにする、リセットするというのも大事なんだな、とすごく感じた。

塚田:まだ、我慢する日々が続くと思いますが

島村:今自分に出来る事っていうのをしっかり考えて、私たちと一緒に乗り越えていきましょう。

二人:私たちは川崎の子ども達を応援しています。